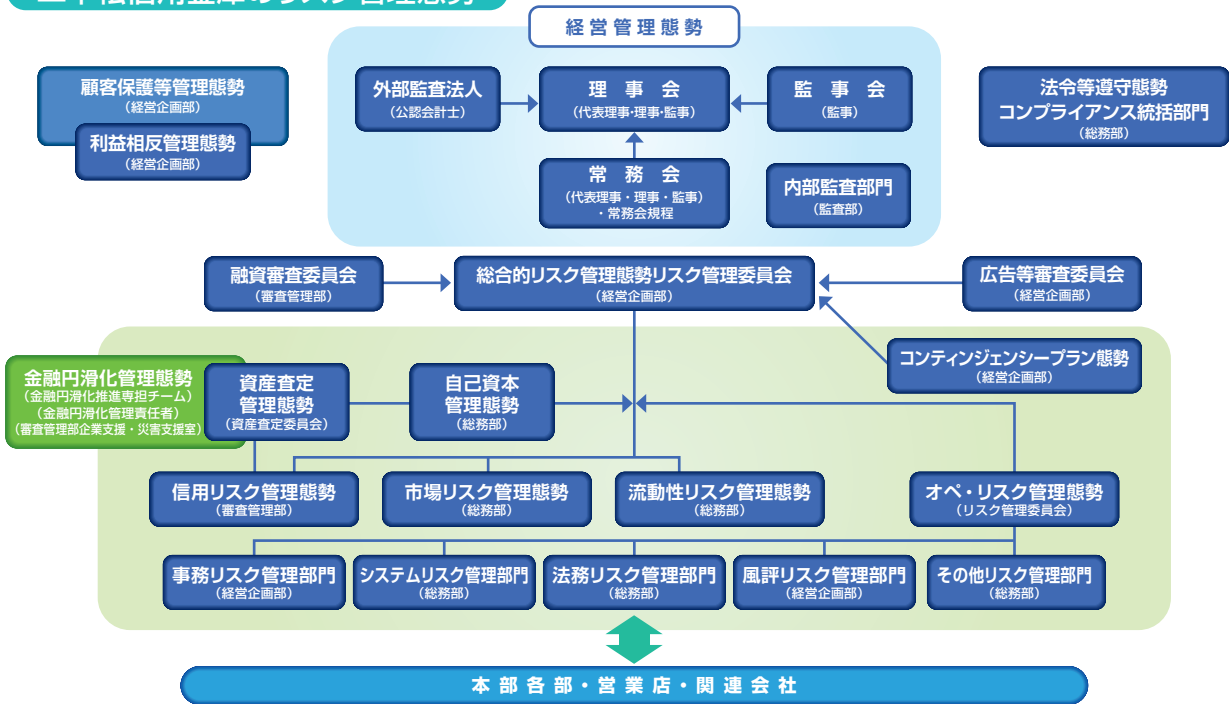


# 事業の運営の方針と態勢

## 統合的リスク管理態勢

### 二本松信用金庫のリスク管理態勢



## 内部管理基本方針

当金庫は、業務の適切性・健全性を確保するためには、内部統制に関する体制の整備とその実効性を確保することが必要不可欠なものと認識し、「内部管理基本方針」を定めております。

「内部管理基本方針」には次の事項を定めております。

- ① 理事及び職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- ② 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ④ 理事の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
- ⑤ 監事がその職務を補助すべき職員をおくことを求めた場合における当該職員に関する事項
- ⑥ 監事の職務を補助すべき職員の理事からの独立性に関する事項
- ⑦ 理事及び職員が監事に報告するための体制その他の監事への報告に関する体制
- ⑧ その他監事の監査が実効的に行なわれることを確保するための体制

## 自己責任原則に基づくリスク管理態勢・方針について

金融機関を取り巻く環境は、自由化、国際化、規制緩和の急速進展などにより各種リスクは益々多様化し複雑化しております。このような状況下において当金庫は、リスク管理能力の強化を経営の最重要課題の一つに掲げ、健全性・正確性・相互牽制の確保という観点からリスク管理体制の強化、充実に努めております。

全てのリスクを管理する統括部署（リスク管理委員会）を設置し、リスク管理担当部署と相互牽制を図り、リスク管理の状況をより正確に、厳密に適切管理を行っており、健全経営の維持に努めております。

### 1.信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務内容の悪化等により、資産（オフバランス資産を含む）の価値が減少あるいは消滅し、損失を被るリスクのことをいいます。

当金庫は、融資の対象、企業信用格付けの基準および特定の業種または特定のグループに対する与信限度額の設定等と信集中の防止や、適切なポートフォリオ管理方針ならびに決裁権限等のクレジットポリシーを明確にし、信用リスク管理に取り組んでおります。

又、与信先の経営悪化による債権回収の困難または貸倒れによるリスクの的確な把握管理を行い、不測の事態の未然防止および相互牽制等の機能が十分に発揮される態勢を整備し、資産の健全性確保に取り組んでおります。

### 2.市場リスク管理

市場リスクとは、金利や有価証券等の価格、為替等の様々な市場のリスクファクターの変動により、保有する資産（オフバランス資産を含む）の価値が変動し被るリスクのことをいいます。

当金庫は、リスク分散を図り、期間損益・評価損益のバランスに留意し、会計リスクが経営指標へ与える影響を検証し、適正化を図るとともに、VaR（観測5年保有240日99%タイル値）等の活用によりリスクの定量化、シミュレーションの実施により適切なリスクコントロールを図っております。

又、当金庫は、ALM手法を駆使し調達・運用期間のバランスと金利ミスマッチを厳正に管理しております。

### 3.流動性リスク管理

流動性リスクとは、次の2つのリスクをいいます。

なお、当金庫は、支払準備金の確保の観点から、日常の資金調達と運用状況を把握するとともに、流動性リスクの起因となる顧客の評判、風評等の情報収集に努め、それらの管理態勢を構築し、その存在を意識しつつ資金繰りを管理しております。

**①市場流動性リスク** 市場流動性リスクとは、市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより、損失を被るリスクのことをいいます。

**②資金繰りリスク** 資金繰りリスクとは、必要な資金が確保できなくなり資金繰りがつかなくなる場合や、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより、損失を被るリスクのことをいいます。

### 4.オペレーショナル・リスク管理

**①事務リスク** 事務リスクとは、預金・融資・為替などの各種取引に伴って発生する事務を正確に行わなかったことなどから生じる事故によって損失を被るリスクのことをいいます。

当金庫は、業務・商品の多様化に対処し、コンピュータ処理を主体とした事務の機械化を進め、事務規程やマニュアルの整備など、システム面・手続き面でのチェック機能を充実させ、迅速・正確な事務処理を行っております。

又、事務処理の統一化と事務ミスの未然防止のため、徹底した事務指導を行うなど職員教育の充実を図るとともに、監査部が、臨店検査を年に一回以上実施し、内部牽制が機能する態勢としております。

**②システムリスク** システムリスクとは、コンピュータ・システムの誤作動や事故・災害時の障害に伴い損失を被るリスク、さらにコンピュータ等のシステムが不正に使用されることによる損失を被るリスクをいいます。

当金庫は、災害対策や安全対策のため、非常事態に備えての準備、バックアップ回線の確保によるオンライン機能の強化や、規定・マニュアルを定めシステムの厳正な管理を行うなど、万全の態勢を整えております。

**③法務リスク** 法務リスクとは、当金庫経営・取引等に係る法令・庫内規程等に違反する行為ならびにその恐れのある行為が発生することで当金庫の信用の失墜を招き損失を被るリスクをいいます。

当金庫は、信用の維持・確保を図るためには、全ての業務・商品等にコンプライアンス遵守が必須であることを認識し、リスクの把握と適正な管理を行っております。

**④人的リスク** 人的リスクとは、人事運営上の不公平・不公正(報酬・手当・解雇等の問題)および差別的行為(セクシュアルハラスメント等)から生じる損失・損害をいいます。

当金庫は、人事運営上の不公平・不公正および差別的行為から生じる損失・損害を認識し、リスクの把握と適正な管理に取り組んでおります。

**⑤有形資産リスク** 有形資産リスクとは、災害その他の事象から生じる有形資産の毀損・損害をいいます。

当金庫は、災害その他の事象から生じる有形資産の毀損・損害の未然防止に努めるとともに、発生に際しては緊急時対策マニュアルおよび災害対策要領に基づき、緊急時模擬訓練等も実施しております。

**⑥風評リスク** 風評リスクとは、好ましくない通常業務の継続、マスコミ報道、市場関係者の評判、トラブル等をきっかけとして会員・顧客・取引先等関係者の当金庫に対するイメージと信用の失墜から、経営上重大な有形無形の損失が発生する危険性をいいます。

当金庫は、健全性確保に努めるとともに、他金融機関の評判劣化による連鎖リスクの存在を認識し、常に健全性・収益性のアピールを行っております。又、小さな苦情等が大きな評判リスクとなることを認識し、常に情報収集に努めております。

#### ■オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当金庫は基礎的手法を採用しております。

## 情報のセキュリティについて

情報化システムの進展は、金融機関が保有する情報資産を質・量と共に飛躍的に増加させており、当金庫においてもインターネットを利用した情報の発信や収集が日常的に行われております。

又、システムやパソコンのネットワーク化により、多くの利用者による情報の活用、共有化が行われている一方で、情報資産の安全管理に関する問題が重要な課題となってきており、金融機関としての社会的責任を果たすため、当金庫が保有する情報資産を適切に保護・管理しなければなりません。そのために、当金庫では次のように情報資産のセキュリティ対策に取り組んでおります。

情報及び情報システム、情報機器に関する情報の漏洩、外部からの情報システムの侵入、破壊行為を防止する目的で、当金庫の対応策を定めた「情報資産保護に関する基本方針(セキュリティポリシー)」を制定しております。

「個人情報保護法」に基づき、「個人情報の保護と利用に関する規程」により個人情報保護宣言を行い、お客様の個人データの安全管理措置(データの暗号化やログ管理等)に万全を期しております。

## コンプライアンス(法令等の遵守)態勢

金融機関には、公正な取引の確保、顧客情報の厳正な取扱い、マネー・ローンダリングの防止など遵守すべき法令やルールが数多く存在しますが、「コンプライアンス」とは、こうした法令やルールを厳格に遵守するとともに、社会的規範を全うすることをいいます。

まつしんは、地域で最も信頼される金融機関となるために、信用金庫の社会的責任を重く受けとめ、役職員の倫理意識の高揚と法令遵守マインドの向上に努めております。

当金庫内にコンプライアンスの統括部署を設置し、具体的な実践計画の作成とその実施の指導に取り組んでおります。

又、各部署・支店にはコンプライアンスの責任者を設置し、職員の信用金庫人としての高い倫理観の醸成、啓蒙活動、研修、遵守状況のチェックを通してコンプライアンスの徹底を図っております。

#### まつしん行動綱領

- ① 信用金庫の社会的使命と公共性の自覚と責任
- ② 質の高い金融等サービスの提供と地域社会発展への貢献
- ③ 法令やルールの厳格な遵守
- ④ 地域社会とのコミュニケーション
- ⑤ 環境問題への取り組み
- ⑥ 社会貢献活動への取り組み
- ⑦ 反社会的勢力の排除